

御前會議經過

日時 昭和二十年六月八日午前十時五分開會

午前十一時五十五分終了

場所 宮内省第二期樞會表拜謁ノ間

0264

○ 出 御

○ 内閣總理大臣

是ヨリ開會致シマス。御許シヲ受ケマシタノデ私ガ議事ヲ進メルコトト致シマス。本日ノ議題ハ「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」デアリマス。

本問題ヲ研究スル前提ト致シマシテ、先ヅ國力ノ現状ニ關シテ一應檢考致シ度イト思ヒマス。綜合計畫局長官ヲシテ朗讀致サセマス。

○ 綜合計畫局長官

「國力ノ現状」朗讀

○ 内閣總理大臣

次ニ世界情勢判斷ニ關シ關係各省ニ於テ研究シ之ヲ綜合致シマシタモノヲ内閣書記官長ヲシテ朗讀致サセマス。

○ 内閣書記官長

「世界情勢判斷」朗讀

○ 内閣總理大臣

次ニ陸海軍統帥部ニ於カレテ今後ノ作戰ニ關スル所見ヲ御述ベ願ヒ度イト存ジマス。

0265

○ 參謀總長代理 參謀次長 發言

○ 軍令部總長 發言

○ 內閣總理大臣

以上承ツタ所ニ關シテ御列席ノ各位ヨリ順次所見ノ御開陳ヲ願ヒ度イト思フノデアリマ
スルガ、先ヅ軍需大臣ヨリ軍需生産ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○ 軍需大臣 發言

○ 內閣總理大臣

次ニ農商大臣ヨリ食糧事情ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○ 農商大臣 發言

○ 內閣總理大臣

次ニ外交上ノ問題ニ關シテ外務大臣ヨリ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○ 外務大臣 發言

○ 內閣總理大臣

尙御列席ノ樞密院議長、陸海軍大臣、兩總長ヨリ御所見カゴザイマヌルナラバ此ノ際御
述ベテ願ヒ度イト思ヒマス。

○平沼樞密院議長 發言

○内閣總理大臣

以上御話ヲ綜合致シマスルト、今後採ルベキ戦争指導ノ大綱ハ概ネ一昨日最高戦争指導會議ニ於テ審議致シマシタル所ニ歸スルモノノ如ク存セラレマスカラ、茲ニ一昨日右會議ニ於テ審議致シマシタル「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ヲ議案トシテ審議致シタラ如何カト思ヒマス。

先ツ内閣書記官長ヲシテ之ヲ朗讀致サセマス。

○内閣書記官長

「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」朗讀

○内閣總理大臣

本議題ニ付テ皆様ヨリ御意見ヲ御述ベ願ヒ度イト思ヒマス。

(發言無シ)

○内閣總理大臣

別ニ御發言モナイヤウデアリマスカラ、本案ニ御異議ナキモノト認メテ宜シウ御座イ

0267

マセウカ。

○内閣總理大臣

別ニ御異議モナイモノト認メマス。

○内閣總理大臣

本件「今後採ルベキ戦争指導基本大綱」ニ從ヒ今後政府、統帥部ハ眞ニ一體トナツテ之ガ實現ニ努メテ參ル次第デアリマスルガ、本件ハ本日ノ論議ニ徴シテモ明カナル通り政府竝ニ統帥部ニ於テハ並々ナラヌ努力ヲ致スコトガ必須ノ前提要件トナツテ居ルノデアリマス。統帥部ニ於カレマシテハ眞ニ陸海一體ノ綜合作戦ノ妙ヲ發揮セラレマスルヤウニ御願ヲ致シマスルト同時ニ、政府ノ側ニ於キマシテモ本大綱就中其ノ第二項及第三項ニ付テハ閣僚一同誓葉ノ通り必死ノ決心ヲ以テマシテ之カ具現ニ努力致シマシテ、誓ツテ本大綱ニ示サレタル方針ノ完遂ニ邁進致ス覺悟ヲゴザイマス。

現下帝國ノ狀勢ハ眞ニ危急デゴザイマス。謂ハバ死中ニ活ヲ求ムルノ立場ニ在ルトモ申スコトガ出來ルト恩フノデゴザイマスルガ、是ハ單純ナル智慧トカ才覺トカヲ以テハ能クシ得ナイ所デゴザイマシテ、簡明直截、右顧左眄スルコトナク、驚ラニ所信ニ向ツ

0268

テ邁進スル外ハナイノデアリマシテ、此處ニ私共政府ノ覺悟ヲ申上ゲテ置ク次第デゴザ
イマス。

之ヲ以テ閉會ト致シマス

○内閣總理大臣入御奏請

○入御

0269

國力ノ現状

一 要旨

戰局ノ急迫ニ伴ヒ陸海交通竝ニ重要生産ハ益々阻害セラレ食糧ノ逼迫ハ深刻ヲ加ヘ近代的物的戰力ノ綜合發揮ハ極メテ至難トナルベク民心ノ動向亦深ク注意ヲ要スルモノアリ從ツテ之等ニ對スル諸施策ハ眞ニ一瞬ヲ爭フベキ情勢ニ在リ

二 民心ノ動向

國民ハ胸底ニ忠誠心ヲ存シ敵ノ侵寇等ニ對シテハ抵抗スルノ氣構ヲ有シアルモ他面局
面ノ轉回ヲ冀求スルノ氣分アリ

軍部及政府ニ對スル批判逐次盛トナリ動モスレバ指導層ニ對スル信賴感ニ動搖ヲ來シツ
ツアル傾向アリ且國民道義ハ頽廢ノ兆アリ

又自己防衛ノ觀念強ク敢闘奉公精神ノ昂揚充分ナラズ庶民層ニハ農家ニ於テモ諦觀自棄
的風潮アリ指導的知識層ニハ焦燥和平冀求氣分底流シツツアルヲ看取ス カカル情勢ニ
乘ジ一部野心分子ハ變革的企圖ヲ以テ靈動シアル形跡アリ

沖繩作戰最悪ノ場合ニ於ケル民心ノ動向ニ調シテハ特ニ深甚ノ注意ト適切ナル指導トツ
必要トス 尙今後敵ノ思想攪亂行動ハ盛トナルヲ豫期セザルベカラズ

三 人的國力

(イ) 人的國力ハ戰爭ニ因ル消耗モ未ダ大ナラズ物的國力ニ比スレバ尙餘裕アリ唯其ノ使
用概シテ效率的ナラズ動員及配置ハ生産ノ推移ニ即應セズ人員ノ偏在遊休化ヲ見ツツア
ル現狀ニシテ徹底的配置轉換及能率増進ヲ強行スレバ人的國力ノ部面ニ於テハ戰爭遂行
ニ大ナル支障ナク之ガ活用ノ如何ニ依リテハ戰力造出ノ餘地アリト認メラルル但シ今後
ニ於テ大規模ノ兵力動員アルニ於テハ必ズシモ樂觀ヲ許サザルモノアリ

(ロ) 戰爭ニ基ク増殖率低下ノ徵漸ク顯ハレ且體位ノ低下ハ特ニ戒心ヲ要ス

四 輸送力及通信

(イ) 汽船輸送力ニ付テハ使用船腹量急激ニ減少シテ現在約百萬總屯ナルモ而カモ燃料ノ
不足、敵ノ妨害激化及荷役力ノ低下等ノ爲著シク運航ヲ阻害サレアリ若シ最近ニ於ケル
損耗ノ實績ヲ以テ推移スレバ本年末ニ於テハ使用船腹量ハ殆ンド皆無ニ近キ狀態ニ立廻
ルベシ且大陸トノ交通ヲ確保シ得ルヤ否ヤハ沖繩作戰ノ如何ニ懸ル處大ニシテ最悪ノ場

合ニ於テハ六月以降殆ド其ノ計畫的交通ヲ期待シ得ガルニ至ルベシ

機帆船輸送力モ亦燃料不足及敵ノ妨害ニ因リ急激ニ減少スル虞大ナリ

(ロ) 鐵道輸送力ハ最近ニ於ケル車輛ハ施設等ノ疲弊ニ加ヘ空襲被害ニ因リ逐次低下シツツアリ今後敵ハ交通破壞空襲ヲ激化スベク爲ニ鐵道輸送力ハ各般ノ努力ヲ盡シツツアルモ前年度ニ比シ二分ノ一程度ニ減退スベク特ニ中期以降一貫性ヲ喪失シ局地輸送力トナル虞大ナリ

(ハ) 陸上小運送力竝ニ港灣荷役力ハ資材、燃料及勞務事情竝ニ運營體制ノ不備等ニ伴ヒ末端輸送及海陸輸送ノ接續ノミナラズ鐵道及海上輸送自體ニ對シテモ重大ナル隘路ヲ形成シツツアリ尙港灣ニ付テハ今後敵襲ニ依リ其ノ機能ヲ停止セララルル虞大ナリ

(ニ) 通信ハ資材、要員等ノ事情竝ニ空襲被害ニ因リ其ノ機能ヲ阻害セラレツツアリ今後空襲激化等ニ伴ヒ本年中期以降ニ於テハ各種通信連絡ハ甚シク困難トナルベシ

軍物的國力

(イ) 鐵鋼生産ハ主トシテ原料炭及鐵石ノ輸送入手難ニ因リ現在概ネ前年同期ニ比シ四分ノ一程度ニ陥リ鋼船ノ新造補給ハ本年中期以降ハ全然期待シ得ザル狀況ナリ尙所在資材

ノ活用戦力化ニ付テモ實行上多大ノ困難ヲ克服スルノ要アリ

(ロ) 東部及西部地域ニ對スル石炭ノ供給ハ生産及輸送ノ減少ニ伴ヒ著シク低下シ空襲被害ノ増大ト相俟ツテ中樞地帯ノ工業生産ハ全面崩壊ニ下向シツツアリ中期以降ノ輸送ノ狀況ニ依リテハ中樞地帯ノ工業ハ石炭供給ノ杜絶ニ依リ相當部分運轉休止トナルノ虞大ナリ

(ハ) 大陸工業鹽ノ還送減少ニ因リ曹達ヲ基盤トスル化學工業生産ハ加速的ニ低下シツツアリ特ニ中期以降原料鹽ノ取得ハ危機ニ直面スベク之ガ爲輕金屬及人造石油ノ生産ハ固ヨリ火藥、爆藥等ノ確保ニモ困難ヲ生ズルノ結果トナルベシ

(ニ) 液體燃料ノ供給ハ今後日滿支ノ自給ニ俟ツノ外ナク貯油ノ拂底下増産計畫ノ進行遲延ニ伴ヒ航空燃料等ノ逼迫ハ中期以降戰爭遂行ニ重大ナル影響ヲ及ボス情勢ナリ

(ホ) 航空機ヲ中心トスル近代兵器ノ生産ハ空襲ノ激化ニ因ル交通及生産ノ破壊並ニ前記ノ原材料、燃料等ノ逼迫ノ爲在來方式ニ依ル量産遂行ハ遠カラス至難トナルベシ

六 國民生活

(イ) 食糧ノ逼迫ハ漸次深刻ヲ加ヘ本端境期ハ開戦以來最大ノ危機ニシテ大陸糧穀及食糧鹽ノ計畫輸入ヲ確保シ得ルトモ今後國民食生活ハ強度ニ規制セラレタル基準ノ糧穀ト生理的必需最少限度ノ鹽分ヲ漸ク攝取シ得ル程度トナルヲ覺悟セザルベカラス

更ニ海外輸入ノ妨害、國內輸送ノ分斷、天候及敵襲等ニ伴フ生産減少等ノ條件ヲ考慮
ニ入ルルトキハ周地的ニ饑餓状態ヲ現出スルノ虞アリ治安上モ樂觀ヲ許サズ

尙來年度ノ食糧事情カ本年度ニ比シ更ニ深刻化スベキハ想察ニ難カラズ

(ロ)物價騰貴ノ趨勢著シク闇ノ横行、經濟道義ノ頽廢等ニ依ル經濟秩序紊亂ノ傾向漸ク
顯著トナリ今後ノ推移ニ依リテハ「インフレーション」昂進ノ極速ニハ戰時經濟ノ組織
的運営ヲ不能ナラシムルノ虞ナシトセズ

0274

判 決

國力ノ現狀以上ノ如ク加之敵ノ空襲激化ニ伴ヒ物的國力ノ充實極メテ困難ナル狀況ニアリ
ト雖モ之 最大ノ隘路ハ生産意欲並敢闘精神ノ不足ト國力ノ戦力化ニ關スル具體的施策ノ
不徹底ナルトニ存ス

之カ爲國民ノ戰意特ニ皇國傳統ノ忠誠心ヲ遺憾ナク發揮セシムルト共ニ戰爭遂行ニ必要ナ
ル最少限ノ戦力維持ヲ可能ナラシムル如ク八、九月頃迄ニ完了セシムルコトヲ目途トシ強
力ナル各種具體的施策ヲ講スルノ要アリ

0275

世界情勢判斷

概ネ昭和二十年末ヲ目途トスル世界情勢ノ推移ヲ判斷シ今後ノ戰爭指導ニ資セントス

第一敵側ノ情勢

主敵米國ハ出血ノ累加「ルーズヴェルト」ノ死去、歐洲戰爭ノ終結ニ伴フ戰爭倦怠氣分等戰爭指導上ノ惱ヲ包藏シツツモ尙豐富ナル物力ヲ以テ單獨ニテモ速カニ對日戰爭ヲ終結セシメントスル戰意旺盛ニシテ對日作戰強行ニ邁進スベシ英國ハ歐洲戰爭終了後ナルベク早期ニ終戰ヲ希望シアルヘキモ對日戰爭指導ハ米國ノ主導スル所ナルヲ以テ大勢ヲ左右シ得サルヘク結局英國ハ全世界ニ於ケル米國トノ協調ノ必要性尙彼ノ豫想スル戰後ノ東亞處分ニ際スル自國ノ發言權確保ノ爲對日戰爭參加ヲ繼續シ且在東亞兵力ヲ增強スヘシ重慶ハ延安トノ抗爭及「ソ」ノ動向ニ關シ苦惱ヲ藏シ居ルモ尙米ノ利用ニ依ル對日戰完遂ト其ノ國際的地位ノ向上ヲ企圖シ米ノ支那大陸又ハ日本本土作戰ニ呼應シ積極的反攻ヲ展開スヘシ

以上ノ大勢ニ拘ラス特ニ歐洲ニ於テハ米英對「ソ」ノ角逐漸次表面化シ來リ又米英重慶

相互間ニモ戰爭目的ノ不一致アリテ反樞軸側結束ハ弱化ノ傾向ニアリ、然レドモ妥協ニ依リ當面ヲ糊塗スルニ努ムヘク彼等陣營ノ結束ハ遽カニ崩レルコトナカルヘシ但シ帝國カ毅然トシテ長期戰完遂ニ邁進シ大出血ヲ強要シ本年後期ニ至ラバ敵側ノ繼戰意志ニ相當ナル動搖ヲ生來セシメ得ルコトナシトセズ

第二「ソ」ノ動向

「ソ」ハ歐洲戰ノ終結ニ伴ヒ歐洲ニ對スル戰後處理位自國ノ復興ニ勉ムルト共ニ大東亞戰爭ニ對シテハ自主的立場ヲ持續シツツ機ニ應シ東亞就中滿支方面ニ對シ勢力ノ伸張ヲ企圖スヘシ

而シテ帝國ニ對シテハ累次措置ニヨリ要スレバ何時ニテモ敵對關係ニ入り得ル外交態勢ヲ整ヘ居ルト共ニ東「ソ」ノ兵備ヲ強化シツツアルヲ以テ益々政略的壓迫ヲ加重シ大東亞戰況帝國ニ甚タシク不利ニシテ自己ノ犠牲少シト判斷スル場合ニ於テハ對日武力發動ニ依ル野望達成ニ出ツル算大ナリ然レトモ米ノ東亞進出ニ對スル牽制の意味合ヨリシテ比較的早期ニ武力行使ニ出ヅルコトナシトセサルヘシ其ノ時期ハ敵ノ本土又ハ中北支方面上陸ノ時期、北滿ノ作戰的氣象條件及東「ソ」兵力集中ノ狀況等ヨリ見テ本年夏秋ノ候以降特ニ警戒ヲ要スヘシ

尙「ソ」トシテハ米ノ希望ノ實現ヲ助ケカネテ自己ノ意圖達成ヲ目途トシテ我ニ對シ米トノ和平ヲ強要スル場合ナシトセサルヘシ

第三 東亞ノ情勢

ノ太平洋方面

米英ハ有利ナル戰勢ニ乘シ帝國本土ヲ成ルヘク速カニ大陸ヨリ分斷スルト共ニ熾烈ナル航空作戰ニ依リ帝國ノ無力化ヲ策シツツ一舉ニ帝國本土ニ對シ短期決戰ヲ企圖スヘシ之カ爲南西諸島ニ於テ更ニ徹底セル戰果ヲ擧ゲ得サレハ之カ攻略ニ引續キ附近基地ヲ擴充シ六月下旬以降直路九州四國方面、狀況ニ依リ朝鮮海峽方面ニ對スル上陸作戰ヲ強行シ次イデ初秋以降決戰作戰ヲ關東地方ニ指向スルノ算大ナリ

又對日基地獲得及「ソ」支政略ヲ目的トスル中北支要地作戰ヲ行フコトアルヘシ尙失地回復及對支補給等ヲ目的トシ本土及其ノ他ノ作戰ト併行的ニ中南支沿岸作戰ヲ企圖スルコトアルヘシ歐洲戰ノ終結ニ伴ヒ夏季以降相當量ノ敵就中大型飛行機ノ來攻ヲ豫期シ置クノ要アリ

2. 支那方面

重慶ハ米ノ支援ニ依リ基幹戦力ノ米式強化ヲ圖ル一方空軍ノ増勢ト相俟テ米ノ作戰

ニ策應シ秋季以降對日全面的反攻ヲ實施スルノ算大ニシテ米ノ進出積極化スルニ伴ヒ
大陸戰線亦眞ニ重大ナル局面ニ遭逢スルモノト豫想セラル

又我カ占據地域ニ對スル敵特ニ延安側ノ遊撃反攻ハ益々激化セララルヘシ

重慶ト米トノ關係ノ現況ニ照シ當面日支間ノ全面和平ヲ實現セシムルコト至難ナルモ
支那ノ再戰場化、米完勝ニ依ル東亞制覇ノ前途ニ對シテハ一抹ノ不安ヲモ包藏シアル
ト共ニ他面延安勢力ノ浸潤擴大就中「ソ」ノ壓力増大ノ可能性ニ就テハ深刻ナル苦惱
内在シアリ

3. 南方方面

緬甸方面ニ對シテハ引續キ陸海空ノ壓力加重ニ依リ同方面ニ於ケル我カ戰政略態勢ハ
緊縮スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ又敵ハ太平洋方面ノ攻勢ト關聯シ「ボルネオ」上
陸作戰ヲ加強シ又近ク馬來半島、「スマトラ」及其ノ他要地ニ上陸シ政謀略ヲ強化シ
ツツ逐次爾他各地域ヲ蠶食シ其ノ要城ノ奪回ヲ企圖スヘシ

4. 大東亞諸邦ノ動向

大東亞諸邦ハ大東亞戰局ノ推移ト敵側謀略ノ激化ト相俟ツテ對日非協力態度漸次表面
ニ露呈シ中ニハ遂ニ敵性化スルモノアルニ至ルヘシ

判 決

今ヤ戦局ハ帝國ニ取リ極メテ急迫シ歐洲盟邦モ既ニ崩壞シ「ソ」ノ對日動向亦最モ警戒ヲ要シ帝國ハ眞ニ存亡ノ岐路ニ立チ居ルモ敵亦苦惱ヲ包藏シ短期終戦ニ狂奔シツツアリ從ツテ帝國ハ牢固タル決意ノ下必勝ノ圖魂ヲ堅持シ皇國傳統ノ忠誠心ヲ遺憾ナク發揮シ速カニ政戰略施策ヲ斷行シ以テ戦勝ノ神機ヲ捕捉スルニ遺憾無カラシムルヲ要ス

0280

軍需生産並ニ物的國力一般ノ現状ニ關シテニ綜合計畫局長官ノ説明ノ通デアリマスガ第一四半期ノ實施狀況ヲ見マスルニ海上輸送力ニ付キマシテハ總量的ニハ概ネ最低目標ヲ確保シ得ベキ見込デアリマスガ大陸穀類、鹽ニ關シテハ港灣荷役力ノ不足、機雷投下等ノ爲相當實績不良デアリマシテ或ハ一四半期計畫量ヲ上半期ニ於テ實行シ得ル程度ニ止マリ第一四半期計畫分ハ殆ンド期待シ得ザル狀況ニ陥ルコトナキヲ保シ得ザルコトヲ惧ルル次第デアリマス。又石炭ニ關シテモ前記ト略々同様ノ原因ニヨリ鐵道及機帆船ノ輸送實績十分ナラズ之ガ爲重要物資ノ生産モ相當計畫ヲ下廻ル狀況デアリマス。

次に第一四半期ノ軍需生産ハ海陸輸送力ノ推移ニ左右セラルルコト最モ大デアリマスガ汽船輸送力ハ主トシテ空襲ノ激化ニ依リ前期ニ比シ更ニ著シク低下スベク大陸糧穀及鹽ノ輸送ニ重點ヲ置キマストキハ軍需生産關係トシテハ僅少ナル石炭ヲ輸送シ得ルニ止リ機帆船輸送力及鐵道輸送力ニ付テモ空襲ニヨリ前期ニ比シ相當低下スルモノト思料セラレマス右ノ如キ海陸輸送力ノ低下ハ惹イテ軍需生産ノ基盤タル本州中樞部ノ石炭配當量ヲ前期ニ比シ相當大幅ニ低下セシメ産業稼働ハ前年同期ノ三割内外ニ低下スルモノト豫

想セラレ特ニ重要ナル軍需關係資材ノ生産ニ於テモ前期ノ六割乃至七割程度ニ低下スルモノト豫想セラレマス

尙ホ航空兵器ニ關シマシテハ現状ニ著シキ變化ナキ限り上半期ニ於テハ概ネ當初計畫ノ六割程度即チ月二〇〇〇機程度ノ生産ヲ維持シ得ル見込デアリマスガ疎開ヲ必要トスル實狀ニアリマスノト航空工業ガ綜合工業タルノ特性ニ鑑ミ他ノ關聯工業ノ生産ガ減退スレバ其ノ影響ヲ蒙ルコトハ免レ得ナイト考ヘマス

而シテ若シ沖繩ノ戰局最悪ノ事態ニ陥ルガ如キ場合ヲ想定致シマスト軍需生産ハ更ニ惡化スル懼カ頗ル大デアリマス

以上ノ如キ狀況デアリマスノデ今後ノ軍需生産維持ハ主トシテ海陸輸送力ノ確保如何ニ關シマスルガ故ニ兩統帥部ニ於テハ空襲ニ對スル海陸輸送機關ノ防衛ニ關シ強力ナル措置ヲ講ゼラレンコトヲ特ニ要望スル次第デアリマス

以上申述べマシタルガ如ク情勢ノ推移ニ依リマシテハ先ニ綜合計畫局長官ノ述べラレタル生産ノ見透ハ更ニ急激ニ惡化スル可能性ガアルノデアリマスガ前者ノ見透程度ノ生産ヲ遂行致シマスルガ爲ニモ容易ナラヌ決意ヲ要スルモノト考ヘマス依テ軍需生産ニ從事

0282

スルモノト致シマシテハ一方軍部ハ素ヨリ各關係者ト緊密ナル聯結ヲ保持シ生産意欲敢
闘精神ノ昂揚及國力ノ急速ナル戦力化ニ對シアラユル手段ノ方途ヲ採リマスルト共ニ他
方軍需行政ニ關スル關係省ノ職域ヲ明定シ其ノ職域トスル所ニ付テハ全責任ヲ以テ果敢
ニ其ノ任務ヲ遂行シ得ル如キ方策ニツキ速急ニ所要ノ措置ヲ講ズルコトガ絶對ニ必要ト
存スル次第デアリマス、

0283

六月八日御前會議ニ於ケル樞密院議長ノ發言

一 只今ノ説明ニヨリ戰爭指導方針竝ニ作戰ノ計畫ニ就テハ充分了解セルモ今後ノ戰爭遂行ニ相當ノ困難ノ存スルヲ痛感ス

敵ハ科學ノ應用優秀ニシテ且物量旺盛ナルニ對シ我カ對抗ハ相當困難ナルベシ

二 戰爭遂行上ノ困難克服ノ對策ハ今後ノ戰爭指導方針大綱ニ示サレアリテ何レモ期スル處アルヘシト信ス

(イ) 「國體ヲ護持シ」トアルハ申ス迄モナキ事ニシテ此ニ關シテハ平戰時ヲ問ハス努力セサルヘカラス、歴史ニ徴スルニ我國ニテハ内亂ノ爲國體ニ汚點ヲ生セントシタル事ハアルモ御稔威ニ依リ拂拭セラレタリ

今次大戰ニ於テハ敵國ノ爲或ハ國體ニ汚點ノ生スルコトアルヘキハ米英ノ宣傳等モアルモノニシテ之等ニ惑亂セシメラレサル如ク國內對策ニ留意スルヲ要ス
敵ノ攻撃ノ爲我國體ニ汚點ヲ生スルコトナキハ信スル所ナリ、唯國民ヲシテ疑念ヲ生セシメサル様充分指導對策ヲ講スル要アリ

0284

(ロ) 次ニ「皇土ヲ保衛シ」トアルモ之モ亦勿論ノコトニシテ皇土ヲ失フコトハ國家ノ恥辱ナリ此ノ點ハ如何様ノコトアルモ萬難ヲ排シ飽ク迄戰爭ヲ續行スルコトニ邁進セサルヘカラス

三 戰爭指導ノ要領ニ關シテハ原案通ニテ可ナリト認ム

(イ) 之カ遂行ノ爲ニハ生産ノ増強、食糧ノ充實、其ノ他必要ナルコト論ヲ俟タス之ニ對シテハ當局ノ特段ノ盡力ヲ要請ス

(ロ) 茲ニ最モ大切ナルハ國民思想指導對策ニ關スルコトナリ即チ國力ノ現狀ハ判決ノ通りナルヘシト思考スルモ最モ大切ナルハ戰局ノ推移、殊ニ戰況我ニ不利ナル場合ニハ民心弛緩シ易キモノナルヲ以テ此點ニ慎ヲ要ス、民心弛緩ニ就テハ其ノ絶無ヲ期スルハ不可能ナルモ之ニ對スル制壓ノ處置ヲ充分講スルコト即チ權力ヲ以テ之ニ臨ムコト肝要ナリ、乍然權力ニヨル制壓ニテハ不良思想ノ表面化ヲ防止スルニスキス

國民思想ノ根本ヲ矯正スルニハ之ト併行シテ教化ノ力ニ依ラサルヘカラス

我歴代ハ此ノ方針ニテ經驗セラレタリ即チ垂仁天皇ハ其ノ詔ニ教化ヲ第一トセラレタルモ今日モ之ニ變ラス當局ハ此ノ精神ヲ體シテ事ニ臨マサルヘカラスト確信ス

(イ) 今日人心ノ弛緩ハ否ム能ハス素ヨリ傳統的ノ忠誠心ハ失ハレス、祖先ノ遺風ヲ顯彰セントノ氣分ハ變ヲス、但シ之ニ陰影ヲ生スルハ時ニヨリ免ルル能ハス今日ノ場合人心ヲ緊張セシムルコトニ最モ政府當局ノ御配慮ヲ要望スル次第ナリ

(ニ) 「戰意ノ昂揚」ハ一ニカカリテ國民ノ忠誠心ノ發露ニヨルモノニシテ之ヲ弛緩セシムルハ和平ヲ口ニスルコトナリ

今日ノ飽ク迄戰爭完遂セントスル時ニ和平ヲ唱フルカ如キハ最モ戒ムヘシ、個人ノ安易ノ爲メ和平ヲ希求スル者アランモ戰爭完遂セサルハカラサル事態ニ於テ國民ノ間ニ和平ノ彌慢スルカ如キハ最モ戒ムヲ要シ之ヲ國民ノ教化ト權力トニヨリ制歴スルヲ要ス

各大臣就中陸、海軍當局ニ特ニ希望ス

(終)

0286

御前會議ニ於ケル外務大臣兼大東亞大臣發言要旨

米英、蘇聯及重慶ノ動向ニ就テハ概略ハ「世界狀勢ノ判斷」ニ於テ陳述ノ通りデ御座イマスガ、之ニ關聯シ若干所見ヲ申上ゲ度イト存ジマス

第一點ハ主ナル敵米國ノ戰爭指導ニ關シテデ御座イマス。米國ハ内外ニ於テ或程度ノ困難ニ遭遇シテ居ルノハ事實ト認メラレマスガ、帝國ヲ比較的ニ短期間ニ屈伏セシメ得ベシトノ自信ヲ固メテ居ル模様デアリマシテ、帝國ニ對シ無條件降伏ヲ強制セントスル意圖ヲ堅メテ居ルガ如ク、對日戰意ノ喪失ヲ近キ將來ニ期待スルコトハ不可能デアリマス。而シテ英國ハ結局米國ニ追従スルノ外ナク、兩者ノ間隙ニ乘ズル餘地モ先ツ無イノデ御座イマス。第二點ハ米英對蘇聯ノ確執ニ關スル見透シデ御座イマス。對獨戰爭ノ終了ガ米英蘇間ノ協調ヲ弛緩セシムル一材料タルコトハ否定シ得ナイ所デアリマシテ、獨逸其他歐洲各國ノ戰後處理、近東問題、世界平和機構等ニ付キ今後米英對蘇聯ノ間ニ移多ノ確執ガ起ルコトハ豫想ニ難カラザル所デ御座イマスガ、他面米英側モ、戰後ノ平和維持ノ可能性、從ツテ戰勝ノ結果ヲ確保シ得ベキ可能性ハ懸ツテ三國間ノ大局的協調ノ持續如何ニ在リト認識シテ居リマス關係上、大東亞戰爭繼續中ニ右協調ガ破局ニ陥ルガ如キコトハ容易ニ期待シ得ザ

ルコトデ御座イマス

第三點ハ蘇聯ノ對日動向ニ關聯シテデ御座イマスガ蘇聯ハ昨年十一月「スターリン」カ日本ヲ侵略國ト呼ビ、本年四月五日ニ至リ中立條約ノ繼續ヲ不可能ナリト通告シ來レル以後ハ、事實上ハ帝國ニ對シ何時ニテモ敵對關係ニ入り得ル態勢ヲ整へ來ツタノデ御座イマス元來戰時ニ於テハ外交ハ軍事ト表裏一體ヲ爲スモノデアリマシテ、外交ハ戰局ノ進展ニ由リ多大ノ影響ヲ受ケマスノミナラズ、外交交渉ノ成否モ之ニ依ル所大ナル次第デアリマスルカラ、蘇聯ヲシテ中立ヲ守リ通セシメ得ルヤ否ヤモ、窮極ニ於テ戰局ノ推移ニ左右セラレル所ガ尠クナイノデ御座イマス。然ルニ近來蘇聯ハ日本カ遂ニハ米國ノ軍事力ニ壓倒セラルル可能性大ナリト見テ居ル模様デアリマスカラ、蘇聯ヲシテ中立ヲ維持セシムル爲ノ外交ハ極メテ困難デアルト申サネバナリマセヌガ、帝國ガ米英ト死力ヲ決シテ戰ヒ居ル今日蘇聯ノ參戰ヲ見ルガ如キ場合ニハ我死命ヲ制セララル次第デアリマスルカラ、外交當局トシテハ蘇聯ヲシテ中立ヲ維持セシムル爲萬般ノ努力ヲ拂ツテ居ル次第デ御座イマス。但シ右様ナ次第デ御座イマスカラ、嚴正中立以上ニ我方ニ好意的ナル態度ヲ執ラシムルガ如キコトハ戰局ノ推移格段ニ帝國ニ有利トナラザル限り殆ド不可能ト申ス位至難デ御座イマ

0288

スカラ此ノ種好意的態度ヲ見越シテ指導方針ヲ決定スルカ如キハ嚴ニ慎ムベキコトト考ヘ
ラルル次第デ御座イマス

最後ニ重慶ニ就テ簡單ニ申上ゲ度イノデ御座イマス從來ヨリ重慶工作ナルモノガ幾度カ試
ミラレテ來タノデ御座イマスガ、國際政局及戰局ノ現段階ヨリ見マシテ單ニ日支間ノミノ
全面和平ガ實現至難ナルハ勿論デ御座イマシテ、此ノ如キ工作ハ重慶ノ對日謀略ニ命ゼラ
レ、少クトモ重慶ノ戰意ヲ強化スル結果ニ陷ツタノデ御座イマス。尙又米支關係ヲモ考慮
ニ容レタル日支全面和平ノ可能性如何ト申スマスレバ、之レハ日米間ノ和平トモ相成リマ
スノデ現在ノ處實現不可能ナルコトハ明カデ御座イマスガ、重慶ニ對シテ我ガ公正ナル態
度ヲ示シ政治攻勢ヲ執ルコトハ軌道ニ乘ツタモノデ御座イマスノデ今後共努力ヲ續クル必
要ト價值トガアルト存ズル次第デ御座イマス。

御前會議決定第一號

昭和二十年六月八日

今後採ルベキ戰爭指導ノ基本大綱

方針

七生盡忠ノ信念ヲ源力トシ地ノ利人ノ和ヲ以テ飽ク迄戰爭ヲ免遂シ以テ國體ヲ護持シ皇土ヲ保衛シ征戰目的ノ達成ヲ期ス

要領

一 速カニ皇土戰場態勢ヲ強化シ皇軍ノ主戦力ヲ之ニ集中ス

爾他ノ疆域ニ於ケル戦力ノ配置ハ我方實力ヲ勘案シ主敵米ニ對スル戰爭ノ遂行ヲ主眼トシ兼ホテ北邊ノ情勢急變ヲ考慮スルモノトス

二 世界情勢變轉ノ機微ニ投ジ對外諸施策特ニ對「ソ」對支施策ノ活潑強化ナル實行ヲ期シ以テ戰爭遂行ヲ有利ナラシム

三 國內ニ於テハ舉國一致皇土決戦ニ即應シ得ル如ク國民戰爭ノ本質ニ徹スル諸般ノ態勢ヲ整備ス、就中國民義勇隊ノ組織ヲ中軸トシ益々全國民ノ團結ヲ鞏固ニシ愈々戰意ヲ昂揚

0290

シ物の國力ノ充實特ニ食糧ノ確保並特定兵器ノ生産ニ國家施策ノ重點ヲ指向ス
四本大綱ニ基ク實行万策ハ夫々擔任ニ應ジ具體的ニ企畫シ速急ニ之ガ實現ヲ期ス

0291

御前會議ニ於ケル内閣總理大臣發言要旨

本件「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ニ從ヒ今後政府、統帥部ハ眞ニ一體トナツテ之ガ實現ニ努メテ參ル次第デアリマスルガ、本件ハ本日ノ論議ニ徴シテモ明カナル通り、政府並ニ統帥部ニ於テハ並々ナラヌ努力ヲ致スコトガ必須ノ前提要件トナツテ居ルノデアリマス。統帥部ニ於カレマシテハ眞ニ陸海一體ノ綜合作戰ノ妙ヲ發揮セラレマスルヤウニ御願ヲ致シマスルト同時ニ、政府ノ側ニ於キマシテモ本大綱就中其ノ第二項及第三項ニ付テハ閣僚一同奮發ノ通り必死ノ決心ヲ以テマシテ之ガ具現ニ努力致シマシテ、奮ツテ本大綱ニ示サレタル方針ノ完遂ニ邁進致ス覺悟デゴザイマス。

現下帝國ノ情勢ハ眞ニ危急デゴザイマス。謂ハバ死中ニ活ヲ求ムルノ立場ニ在ルトモ申スコトガ出來ルト思フノデゴザイマスルガ、是ハ單純ナル智慧トカ才覺トカヲ以テハ能クシ得ナイ所デゴザイマシテ、簡明直截、右顧左眈スルコトナク、懸ラニ所信ニ向ツテ邁進スル外ハナイノデアリマシテ、此處ニ私共政府ノ覺悟ヲ申上ゲテ置ク次第デゴザイマス。

「戦争指導ノ基本大綱」閣議決定ニ對スル總理ノ所見

昭和二十年五月七日於閣議

唯今閣議デ決定セラレマシタ「今後採ルヘキ戦争指導ノ基本大綱」ハ甚ダ簡單デアリマスガ其ノ内容ハ頗ル重大ナルコトヲ決定致シテ居ルノデアリマシテ今後ニ於ケル政府施策ノ基本ハ之ニ依ツテ決定セラレルノデアリマス。

私ハ昨日最高戦争指導會議ニ於テ午前、午後長時間ニ亙ツテ本案ヲ審議セラレタ際ニ於ケル參列官各位ノ眞劍ナル氣構ヘノ一端ヲ御披露致シマシテ本案ニ對スル政府トシテノ心構ヘヲ閣僚各位ト共ニ決メタイト存ジマス。

先ヅ第一ハ陸海軍統帥部當事者ノ作戰指導ニ關スル決意デアリマス。夫レハ兩軍共ニ沖繩戰局如何ニ拘ラズ最後迄戰ヒ抜クコトノ決意ハ微動ダニセズ敵ノ戰意喪失迄ハ必ズ戰ヒ得ル自信ノアルコトデアリマス。今後ノ作戰ハ決シテ樂デハナク苦戰ヲ豫期スルコト勿論デアリマスガ速カニ邀撃態勢ヲ強化シテ敵ニ大ナル出血ヲ強要スルタメ場合ニヨツテハ十ヲ以テ一ヲ斃スト云フ戰鬪手段ヲ敢テ辭セズ水上特攻ノ應機ノ活用練習機ニヨル特攻、肉彈

0293

ヲ以テスル戦車ノ燃碎等凡ユル手段ヲ以テ敵ノ皇土侵入ヲ撃滅セントスル鞏固ナル決意ト
自信アル作戦方策トヲ承リマシテ誠ニ意ヲ強クシタ次第デアリマス。

此ノ統帥部ノ自信アル決意ニ對シマシテ政府トシテハ外交施策ト國內施策トヲ責任ヲ以テ
實現シナクテハナラヌノデアリマスガ此ノコトタルヤ決シテ容易ナ問題デハナク單ニ國內
問題ノ實現ノミヲ以テシテモ從來ノ様ナ氣構ヘデハ到底其ノ目的ヲ達成スルコトハ出來ナ
イト思ヒマス即チ如何ニシテ全國民ヲ擧ゲテ「戰フ國民ノ姿」ニスルカ、如何ニシテ國民
ノ戰意ヲ昂揚スルカ、如何ニシテ不十分ナル食糧ヲモ我慢シテ戰ヒヲ繼續セシムルカ、如
何ニシテ空爆下ノ單需生産ヲ維持増強スルカト云フ様ナコトヲ考ヘマスト尋常一様ノ決意
ト方法デハ到底實現ガ覺束ナイト存ジマス

私ハ茲ニ於テ閣僚各位ニ腹ヲ決メテ戴キタイト存ジマス。ソレハ外デモアリマセン。各位
ノ責任ニ於テ決メタコトハ必ず實行セシムルト云フコトデアリマス。實行ノ出來ナイ計畫
ハ無意味ノモノデアルコトハ申ス迄モアリマセン而シテ決メタコトヲ必ず實行セシムルタ
メニハ責任觀念ヲ昂揚スルコトハ以外ニ方法ハナイト存ジマス。私ノ云フ責任觀念トハウ
マク出來ナカツタラ其ノ職ヲ止メルト云フ様ナナマヤサシイモノデハナイノデハナイノデ

ハナイノデアリマス出来ナカツタラ腹ヲ切ルト云フ所マデツキ進シダ責任觀念デアリマス
第一線デハ任務ノタメ幾十萬ノ將兵ガ斃レテ居マス銃後國內デ任務ノタメ職域完遂ノタメ
幾人ノ官吏ガ、幾人ノ國民ガ斃レマシタデセウカ、斃レルマデ戦フ所ニ日本人ノ本質ガア
ルト存ジマス。敵彈ニ斃レルモ職任ニ斃レルモ同ジコトデアルト存ジマス皇國未曾有ノ大
難局ヲ突破スルニ當リ此ノ決意以外ニ敵ニ勝ツ方法ハナイト存ジマス。國民ノ全部ガ此ノ
決意ヲシタ時始メテ勝利ヲ獲ルコトガ出来ルト思ヒマス之ガタメニハ先ヅ關係各位ニ於カ
レテ此ノ決意ヲ固メテ戴キタイト存ズル次第デアリマスソシテ自己ノ職責ヲ以テ思ヒ切ツ
テ仕事ヲシテ下サイ下僚ニ遠慮シタリ氣兼ねシタリスルコトナク思ヒ切ツテ下僚ヲ使ヒ意
ニ背クモノガアレバ斷乎處斷スルコトデスソレニヨツテ始メテ吏道ガ刷新セラレ官僚ガ眞
劍ニ働キ、責任ヲ重ンズル様ニナルト思ヒマス尙之ト同時ニ大臣トシテハ絶エズ部下ヲ懇
切丁寧ニ善道スルコトガ必要デアリマス所謂恩威並ビ行ハレルコトニヨツテ完全ニ職務ヲ
完遂スルコトガ出来ルモノデス甚ダ差シ出ガマシイ意見デアリマシタガ私ノ所信ノ一端ヲ
披歴シテ各位ノ決斷ヲ煩ハス次第デアリマス

尙最後ニ一言附加ヘテ置キタイト思フコトガアリマスソレハ本土戰場化ヲ豫想スル場合帝

0295

都ヲ他ニ遷シタラドウカト云フ様ナ意見ヲ聞クロトガアリマスガ私ノ所信ハ「帝都ハ之ヲ
固守スルモノトス」ト云フ決意デアリマシテコノコトハ昨日ノ會議エモ問題ニナリ各位皆
同意見デアリマシタカラ左様御了承ヲ願ヒマス

0296